

5 空港を生かした地域の魅力づくりとは？

静岡県の魅力を発信



スカイフォレスト

旅客ターミナル2階には、静岡県や空港周辺市町の観光・産業情報を発信する「スカイフォレスト」があります。

静岡新聞 平成25年(2013年)5月24日掲載記事



牧之原市東秋間の牧之原中では、このほど、学校茶園で摘採した製茶した新茶を、東名高速道牧之原サービスエリアで販売した。茶娘などに扮(ふん)した生徒たちが新茶をPRしている。

学校茶園で栽培した新茶を入れる生徒たち(静岡空港) 静岡空港では、生徒たちが自らお茶を入れ、搭乗客などに振る舞った。両会場で同校の吹奏楽部がコンサートを開き、新茶シーズンを盛り上げた。同校では総合学習の一環として、茶の栽培、生産、販売などを通して地場産業への理解を深めるとともに、キャリア教育に力を入れている。

“茶娘”が新茶PR

静岡空港 牧之原中生が振る舞う



しずおか茶 おもてなしコーナー (呈茶コーナー)

日本一のお茶の産地静岡県ならではのおもてなしにより、お茶に関する様々な話題をスタッフと楽しみながら、静岡茶を味わうことができます。



静岡県観光 PRコーナー

旅客ターミナル1階の国内線到着口付近に観光案内スタッフを配置するとともに、静岡県内各地の観光パンフレットを置き、観光の魅力をPRしています。



f-air

旅客ターミナル2階の「f-air」では静岡の名物やお土産を販売しています。その一角では、地元の牧之原中学校の生徒が作った「学園茶」が新茶のシーズン等に販売されています。



学園茶

静岡新聞 平成25年(2013年)5月9日掲載記事



茶畑、名刹 400人巡る

「世界お茶まつり」春の祭典に合わせ、牧之原市はこのほど、同市の静岡空港を発着点とする「富士山静岡空港まきのほうろく」を開催した。空港周辺の風景を楽しんでもらおうと企画した。一番茶の摘採を終えた茶畑や曹洞宗の名刹(めいさつ)龍門山石雲院、静岡空港東側の展望広場を巡る計10*の道のりを、参加者はそれぞれのペースで歩いた。ゴール地点ではJ.Aハインが推進するブランド被覆茶「望」や、牧之原の新茶が振る舞われ、新茶シーズンを満喫していた。

約400人が参加した富士山静岡空港まきのほうろく 〓 牧之原市の静岡空港